

武地秀美さんが兵庫県西宮市で「人形芝居えびす座」を結成し、中世の人形遣いが演じた「えびす舞」を復活させたのが2006年。10年前のことだ。

西宮神社周辺にいた「くづ師」がえびす信仰を広めるために全国を回って演じた芸能で、人形浄瑠璃の源流になったとされる。箱を首から提げて人形を操る姿が文献に描かれているが、文言は残っていない。武地さんは人形浄瑠璃や徳島に伝わる人形芝居「箱回し」などから、「平成のえびす舞」として再現した。

東京でライターの仕事や創作ダンス

福を授ける

をしていたが、結婚して神戸にきた。子育てをしながらミニコミ紙の手伝いを始め、西宮市で地域情報紙に関わっている時に阪神大震災が起きた。

01年に市内で別の地域情報紙「ともも」を創刊し、今も続けている。情報紙もえびす舞の活動も、震災からの復興を願い、地域活性化のために始めたものだ。

えびす様がタイを釣り上げたりお神酒を飲み干したり、見ている人に福を授けるといっえびす舞。明治期に伝統は途切れたが、幸せを願う思いが現代によみがえらせた。

【香取泰行】

2016.12.15